



【日本気象協会からのお知らせ】

2026 年 10 月 7 日
一般財団法人 日本気象協会

微気圧振動(インフラサウンド)観測データ提供ネットワークにて 新たに東京 1 地点の観測データを追加公開 ～首都圏のインフラサウンド観測網を拡充～

一般財団法人 日本気象協会（本社:東京都豊島区、理事長:守屋 岳、以下「日本気象協会」）は、2021 年 3 月から無償公開している「インフラサウンド・モニタリング・ネットワーク」(注 1)にて、1 地点の観測データを新たに追加しますのお知らせです。

<2026 年 10 月 7 日から追加公開する観測地点(1 地点)>

株式会社クローネによる以下の地点
(株)クローネ(東京都葛飾区)

地震による地面の震動や津波波源の生成、火山の爆発的噴火、雷、竜巻、雪崩、地すべりなどの大規模な自然現象で、「超低周波」と分類される帯域の微気圧振動は「(人に聞こえない)音」(インフラサウンド)を発生させます。微気圧振動(インフラサウンド)の観測データの活用により、自然災害発生の検知やメカニズムの解明が期待されています。

このような研究や開発に資するべく、「インフラサウンド・モニタリング・ネットワーク」を通じて、国内に展開する微気圧振動(インフラサウンド)の観測データを公開しています。今回、新たに東京都葛飾区の 1 地点の観測データを追加公開します。これにより、北海道から沖縄までの広範な観測網に加え、首都圏における観測網も充実し、微気圧振動(インフラサウンド)を発生させる自然現象をより詳細に把握することが可能となります。

*ご参考:日本気象協会の微気圧計による現地観測、解析、研究 紹介ページ

<https://www.jwa.or.jp/services-solutions/disaster-mitigation/field-observations-analysis-research-using-microbarographs/>

『インフラサウンド・モニタリング・ネットワーク』について





- 「インフラサウンド・モニタリング・ネットワーク」URL:<https://micos-sc.jwa.or.jp/infrasound-net/>
- 内容: 日本気象協会や他の研究機関が保有している過去1年分の微気圧振動観測データの提供
- 提供形式: WIN フォーマット形式(注 2)や CSV 形式にて提供
- 既存の観測地点(23 地点)
 - ・岩手県: 大船渡中学校、末崎中学校、綾里中学校
 - ・三重県: 志摩高校、水産高校、南勢中学校
 - ・愛知県: 西郷小学校、嵩山小学校、玉川小学校
 - ・統計数理研究所/東大地震研: 潮岬、菅平
 - ・国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT): レジリエント ICT 研究センター、東北大学青葉山キャンパス、女川町マスカ、仙台高専名取キャンパス、晩成の宿、宇宙交流センターSORA、旭行政区会館、NICT 小金井本部、電磁波技術センター、大宜味大気観測施設、名護市マルチメディア館
 - ・高知工科大学: 安芸市消防防災センター

○微気圧振動(インフラサウンド)観測データ提供ネットワークへのお問い合わせ(法人向け)

日本気象協会 防災・気象 DX 本部 防災事業部 防災事業課

Tel: 03-5958-8143 Mail: eigyoku_bosai@jwa.or.jp

* 報道関係の方は日本気象協会 広報室までお問い合わせください。

注 1: インフラサウンド・モニタリング・ネットワーク

大気中の微小な気圧変動(インフラサウンド)を観測する観測ネットワーク

なお、インフラサウンドは 0.1 ヘクトパスカルに満たない微小な気圧の変動のこと

1 気圧は 1013.25 ヘクトパスカル

注 2: WIN フォーマット形式

東京大学地震研究所で開発された多チャネル地震波形データ処理システム「WIN システム」にて使用されるデータ形式

以上